



陰部の不快感が強い

なら治療を

慢性前立腺炎

■前立腺肥大症と慢性前立腺炎の特徴

	前立腺肥大症	慢性前立腺炎
主な症状	排尿障害 尿の勢いが弱い、頻尿、残尿感など	会陰部の違和感・痛み 睾丸の違和感・痛みなど
発症しやすい年代	加齢とともに増加 前立腺の肥大は50歳で30%、60歳で60%、70歳で80%、80歳で90%にみられる	30～40歳代
同じころ発症の多い悪性疾患	前立腺がん	精巣がん(睾丸のがん)

前立腺肥大症は加齢とともに増加するので高齢になるほど多くなりますが、慢性前立腺炎は30～40歳代によくみられます。

また、代表的な症状は、前立腺肥大症が排尿障害、一方の慢性前立腺炎は陰部、特に会陰部(陰囊(精巣などを包んでいる袋)と肛門の間)や睾丸(精巣)の違和感や痛みです(左表)。

これらの症状はQOL(生活の質)を低下させるものの、大丈夫だろうと自己判断して我慢している人もいますか

男性の陰部の症状や排尿の問題を扱うのは泌尿器科ですが、症状がかなりつらくなつてから受診する人が多いといわれます。恥ずかしさもあるでしょうが、どんな検査が行われるのかわからないことも受診をためらう一因だと思われま

泌尿器科医が最も重視するのは、がんが疑われるのか、そうでないのかの鑑別です。検査内容は患者さんの年齢

主な検査は尿検査と腹部超音波検査

しかし、良性の疾患によるものかどうかは、素人には判断ができませんから、我慢しないで泌尿器科を受診することをおすすめします。

前立腺肥大症が多い高齢者は前立腺がんの、慢性前立腺炎が多い30～40歳代は精巣がんの発症が多い年代でもあります。受診ががんの早期発見に結びつくかもしれませんし、良性の疾患ならそれを確認することで安心できるでしょう。

男性の陰部の症状や排尿の問題を扱うのは泌尿器科ですが、症状がかなりつらくなつてから受診する人が多いといわれます。恥ずかしさもあるでしょうが、どんな検査が行われるのかわからないことも受診をためらう一因だと思われま

泌尿器科医が最も重視するのは、がんが疑われるのか、そうでないのかの鑑別です。検査内容は患者さんの年齢

問診や診察のほかに必ず行われるのは、**尿検査と腹部超音波検査**です。

尿検査では採取した尿中の白血球や赤血球などの成分を調べます。感染が疑われる場合は尿を培養して細菌の有無や種類を確認します。

腹部超音波検査は体外から超音波を当てるので、患者さんに痛みなどの負担はありません。これで前立腺のおおまかな形や大きさがわかり、腎臓や膀胱のチェックができます。

そのほか、50歳以上であれば血液を採取して、腫瘍マーカーである「PSA(前立腺特異抗原)」を調べます。

排尿の問題を訴える人には、尿の勢いや排尿量などを調べる尿流測定と残尿測定が行われます。また、前立腺肥大症が疑われる場合、前立腺がんとの鑑別のために、肛門から指を入れて前立腺に触る直腸診が行われることもあります。

これらの検査でがんの疑いが否定されたら、良性の疾患ということになります。

慢性前立腺炎の主症状は陰部の違和感や痛み

前立腺は、男性にしかない生殖器官の臓器です。膀胱の真下にあつて、膀胱の出口を取り巻いており、真ん中を尿道が通っています(下図)。正常な前立腺はクルミほどの大きさで、重さは約20gです。

前立腺の主な働きは2つあります。1つは、精液の一部である前立腺液を分泌することです。前立腺液は精子に栄養を与え、運動を活発にするとされ

ています。もう1つは、射精時にリズムカルに収縮して、精液を射出することです。

前立腺の病気として有名なのは**前立腺がん**と**前立腺肥大症**ですが、**慢性前立腺炎**もよくみられる病気です。前立腺がんが生命にかかわる悪性疾患であるのに対して、前立腺肥大症と慢性前立腺炎は、放置しても生命を脅かすことのない良性の疾患です。前立腺肥大症と慢性前立腺炎は良性の疾患という点で共通していますが、発症しやすい年代や主な症状は異なっています。

前立腺の病気と聞いて思い浮かぶのは、前立腺がんと前立腺肥大症ではないでしょうか。どちらも高齢者に多い病気ですが、前者が悪性疾患であるのに対し、後者は生命への影響のない良性疾患です。前立腺の良性疾患でよくみられるものとしては、ほかに慢性前立腺炎があります。前立腺肥大症より若い世代に多く、症状も異なっています。代表的な前立腺の良性疾患として、あまり取り上げられない慢性前立腺炎を中心に紹介します。

監修



やじま泌尿器科クリニック 院長
矢島 通孝 先生
(やじま・みちたか)

●略歴
1977年、早稲田大学理工学部卒業。1984年、聖マリアンナ医科大学卒業。同大学泌尿器科学教室入局。1990年、同大学大学院博士課程修了。米国カリフォルニア大学サンフランシスコ校留学、聖マリアンナ医科大学泌尿器科講師(附属病院泌尿器科医長兼務)、助教授(同副部長兼務)を経て、2002年11月より現職。医学博士。日本泌尿器科学会認定専門医、日本性機能学会幹事・評議員、日本性科学会認定スーパーバイザー。著書に『泌尿器科の病気 排尿と性機能の障害』(日本医学館)。

■前立腺と周囲の臓器



